大分市文化財保存活用地域計画策定支援業務委託 評価基準

①配置職員の評価

評価項目		評価基準	配点
配置職員の経験及び能力	担当職員 専門技術力	地域計画業務実績について以下いずれかで評価する。 A：地域計画の作成業務を主体的に行い、業務の実績が3例以上である。 B：地域計画の作成業務を主体的に行い、業務の実績が3例未満である。 C：地域計画の作成業務を補助的に行い、業務の実績は3例以上である。 D：地域計画の作成業務を補助的に行い、業務の実績は3例未満である。	5 3 2 1
	専門知識力	実績の有無 コンサルとしての業務実績については以下のいずれかで評価する。 A：公的機関が主催する研修会や講演会等で講師や報告等の実績が複数ある（報告書等の作成も評価する）。 B：公的機関が主催する研究会や講師等の実績はないが、支援等の経験がある。 C：実績等がない。	10 5 1
※主体的とは、自ら地域計画作成の方針や計画案を提案し、原稿や図表の作成を行い、文化庁との協議にも同席し説明等を行った実績があることをいう。 ※補助的とは、委託者の指示に従い各種作業を行い、文化庁との協議に同席したが説明を行ったことがない、もしくは同席したことがないことをいう。			15

②業務執行体制の評価

評価項目		評価基準	配点
業務執行体制	支援体制 業務経験	業務実績について、以下いずれかで評価する。 A：地域計画の作成業務を主体的に行い、業務の実績が3例以上である。 B：地域計画の作成業務を主体的に行い、業務の実績が3例未満である。 C：地域計画の作成業務を補助的に行い、業務の実績は3例以上である。 D：地域計画の作成業務を補助的に行い、業務の実績は3例未満である。	4 3 2 1
	専門性	職員配置について、以下のいずれかで評価する。 A：文化財の6類型+2（※）のうち、4類型以上の専門スタッフが所属している。 B：文化財の6類型+2のうち、4類型未満の専門スタッフが所属している。	6 4
			10

※6 類型：有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物、文化的景観及び伝統的建造物群
+2：埋蔵文化財及び文化財の保存技術

③実施方針（実施手順・工程表・その他）

評価項目		評価基準	配点
実施方針	実施手順	<p>地域計画の内容の検討を進めていく手順の妥当性について、以下のいずれかで評価する。</p> <p>A：極めて高い B：高い C：中位 D：やや低い E：低い</p>	<p>5 4 3 2 1</p>
	工程表	<p>工程計画の妥当性が高く、地域計画策定協議会、文化庁との調整、工夫が図られているか、以下のいずれかで評価する。</p> <p>A：極めて高い B：高い C：中位 D：やや低い E：低い</p>	<p>5 4 3 2 1</p>
	その他	<p>当該業務の実施に際して新たな提案があり、実現性の観点からも、その内容が適切であるか、以下のいずれかで評価する。</p> <p>A：極めて高い B：高い C：中位 D：やや低い E：低い</p>	<p>5 4 3 2 1</p>
		<p>地域の実情を把握した上で、業務の円滑な実施に関する提案があった場合、以下のいずれかで評価する。</p> <p>A：極めて高い B：高い C：中位 D：やや低い E：低い</p>	<p>5 4 3 2 1</p>
			20

④技術提案の評価

評価項目		評価基準	配点
課題 に対する 技術 提案	的確性	大南地域の地形・歴史的環境、参考資料等を踏まえ、歴史文化の特性を把握されている場合、以下のいずれかで評価する。 A：極めて高い B：高い C：中位 D：やや低い E：低い	10 7 5 3 1
		大南地域の文化財の保存活用の将来像、課題、方針が適切かつ論理的に整理の内容と方法について、以下のいずれかで評価する。 A：極めて高い B：高い C：中位 D：やや低い E：低い	10 7 5 3 1
	実現性	大南地域の文化財の保存活用に関する措置について説得力があるか、諸条件を鑑みて可能な内容かどうかについて、以下のいずれかで評価する。 A：極めて高い B：高い C：中位 D：やや低い E：低い	10 7 5 3 1
		文化財の保存活用に関する措置に関して、文化財部局だけでなく、地域や民間団体との連携にむけての考え方や方法の提案について、以下のいずれかで評価する。 A：極めて高い B：高い C：中位 D：やや低い E：低い	10 7 5 3 1
	独創性（関連文化財群の提案）	大南地域の歴史文化の特性を十分に把握し、独創的なテーマ・ストーリーになっているか、以下のいずれかで評価する。 A：極めて高い B：高い C：中位 D：やや低い E：低い	10 7 5 3 1
	小 計		

⑤参考見積額の評価

評価項目	評価基準	配点
参考見積の妥当性	見積額が提示した委託業務の規模と大きくかけ離れているか、又は提案内容に対して見積書が不適切な場合には妥当性なしとする。 A：適切である。 B：不適切である。	5 0
小 計		5

⑥合計

	内容	配点
①	配置職員の評価	/15
②	業務執行体制の評価	/10
③	実施方針の評価	/20
④	技術提案の評価	/50
⑤	参考見積額の評価	/5
合計		/100